



## かね もの か お金で物をどうして買うの

### ほしい物を交かんするのはたいへん

おおむかし ひと あいて も もの  
大昔の人たちは、相手の持っている物で、ほしいものがあるとき、どうしたでしょう。  
それをもらうために、あいて もの ようい ころ  
相手がほしがっている物を用意しておいて、交かんしたかもしれ  
ません。このことを、ぶつぶつこう あいて はたら  
物々交かんといいます。また、相手のために、働くなどして、ほし  
もの  
い物にあたいするだけのことをしてあげたかもしれません。

あいて さ だ もの おも じかん  
しかし、相手に差し出す物がとても重かったり、時間がかかったりするときは、すぐに  
ころ  
交かんすることができませんし、あいて  
相手がほしがっているものがないときもあります。

ぶつぶつこう も はこ おも  
このように、物々交かんだと、持ち運びがたいへんだったり、思うようにいかなかった  
りしました。そこで、ちゅうごく きげんぜん せいき ぬの おな かな しなもの  
中国では紀元前5～7世紀のころから、布、魚、刀など、品物をか  
かね ふへい ぎょへい どうへい ぶつびんかへい  
たどったお金ができました。布幣、魚幣、刀幣などで、物品貨幣といいます。

### にほん ねん わどうかいちん 日本では708年に和銅開珎ができる

しなもの ぶつぶつこう べんり せかい くにに  
品物どうしの物々交かんよりも、ずっと便利だということで、世界の国々では、しだい  
かへい つく  
に貨幣が作られるようになりました。

にほん ばあい せいき はじ きん ぎん どうか つか  
日本の場合ですと、5世紀の初めに金・銀・銅貨が使われたといわれますが、よくわか  
りません。きろく のこ ねん つく わどうかいちん  
記録に残っているものでは、708年に作られた「和銅開珎」です。そのころ  
みち なら いちば おお ぶつぶつこう わどうかいちん つか もの  
の都は奈良で、市場も多く、物々交かんがさかんでしたが、しだいに、和銅開珎を使った物  
ばいばい おな  
の売買が行われるようになったようです。

とうじ かへい つか なら ちゅうしん きんきちほう  
しかし、その当時、この貨幣が使われていたのは、奈良を中心とした近畿地方か、その  
しゅうへん  
周辺だけでした。(監修・保岡 孝之)

